

平成25年3月28日号

第7回登録文化財建造物保存・活用講座

保存・活用シンポジウム

平成25年3月6日開催

愛知登文会では、所有者の文化財建造物に対する学習・情報交換の場を提供するものとして文化財建造物保存・活用講座を実施しています。今年度最後の第7回講座では、「保存・活用シンポジウム」と題して、兵庫県と金沢市で活動されている方々を講師としてお招きし、その活動を紹介いただくとともに、後半のディスカッションでは、文化財建造物の保存・活用や維持管理の問題について意見交換を行いました。

報告
1

「ひょうごヘリテージ機構の取り組み」

ひょうごヘリテージ機構H²O代表世話人 沢田 伸氏報告
2

「NPO法人金澤町家研究会の取り組み」

NPO法人金澤町家研究会理事長 川上 光彦氏
金沢大学教授ディス
カッション

コーディネーター

小栗 宏次氏 小栗家住宅所有者
パネリスト

沢田 伸氏 前掲

川上 光彦氏 前掲

牧 謙治氏 愛知県教育委員会文化財保護室主任主査

長谷川良夫氏 愛知登文会会長

報告1 沢田 伸氏

2002年1月に第1期ヘリテージマネージャー講習会がスタートし、2003年6月に全国初のヘリテージマネージャーが誕生。翌年、ヘリテージマネージャーを中心とする「ひょうごヘリテージ機構H²O」を設立した。

ひょうごヘリテージ機構H²Oは、県下ネットワークと地域ネットワークで構成され、地域に密着し、地域の課題に向き合うことを重視している。その土地が生んだ祭や人々、産業など全てを含めて「歴史文化遺産」と呼んでいるが、建築士にとって重要な視点と感じている。

地域という視点からストックの活用を推進していけば個性豊かな地域づくりに貢献でき、それが東京一極集中型に対して日本各地で個性的な文化の花が開くような新しい日本文化の創造につながっていくのではないかと。

報告2 川上 光彦氏

昭和25年の建築基準法施行までに建てられた建物すべて（寺院や神社、茶屋を除く）を金澤町家と総称している。固定資産税台帳ベースの調査で、年間200棟余りが壊されている状況に直面し、継承・活用を進めたいという想いから、平成17年6月に金澤町家研究会がスタートした。

金沢市では独自に「こまちなみ保存条例」をつくり、武士系や町家系の地区を旧町単位で指定（9地区）して、まちなみの保存を進めている。現在、研究会では市から「町家流通コーディネート事業」を委託し、所有者と活用を希望する者のマッチングに取り組んでいる。今後は、修復のための事業主体としてのあり方も目指しながら活動を進めていきたい。

ディスカッション

会場からのご意見1：日本家屋を所有しており、現在はその家屋を活用して市民団体が茶店を開いているが、修理箇所が多くその資力に頭を悩ましている。援助を求める方法の突破口を知りたい。

会場からのご意見2：古い建物を伝統工法等で修復する際、愛知県の場合は大工や左官等の職人が不足している。そのあたりは兵庫や金沢ではいかがか。

→金沢では職人大学校というのがあり、若手の職人がベテランの職人から直接指導を受けて職人は育ってきているが、活躍できる場が少ないのが現状である。

→兵庫でも非常に悩ましい問題だが、我々建築士が伝統的な工法・材料を使う仕事をコンスタントに出していける環境づくりを進めていければ人も育ってくると思う。



1 事業実施報告「こども文化財体験事業」

第3回 小栗家住宅（半田市）

テーマ：国の登録文化財「小栗家住宅」に来て、見て、もちつき・大福もち作りを体験しよう！

小栗家住宅は、万三商店として、古くから醸造業、肥料、米穀、錦糸などの問屋業を手広く営んでいた豪商の邸宅です。古い建物は約140年以上前の明治3年に建てられており、東南海地震や伊勢湾台風など幾度の自然災害にも耐え、ほぼ当時の状態で今に至っています。主屋や表門、書院、茶室など合計7件が国の登録有形文化財に登録されています。

所有者より文化財や小栗家住宅について解説いただいた後、所有者の案内で建物の内部を見学しました。その後、開催時期が年末ということもあり、もちつきを土間で体験しました。また、近所のお餅屋さん指導のもと、大福づくりに挑戦しました。もちつきが初めての子もあり、良い体験になったようです。

H24.12.16(日)	内 容	参加者
13:30～ 14:30	小栗家住宅についてのお話と建物の見学 (講師：小栗家住宅当主 小栗宏次氏)	小学1-5年生 23名
14:30～ 16:00	もちつきと大福もちづくり体験 (講師：佐吾由 榊原町枝氏)	



所有者から文化財・建物についての解説



建物見学（上）と大福もちづくり（下）



土間で餅つき体験

第4回 豊橋市公会堂（豊橋市）

テーマ：国の登録文化財「豊橋市公会堂」に来て、見て、書と篆刻（はんこづくり）を体験しよう！

豊橋市公会堂は、豊橋市によって市制25周年記念事業と昭和天皇の御大典記念事業を兼ねて、昭和6年（1931）に建設されました。豊橋空襲によって市街地の約9割が焼失しましたが、公会堂は戦禍を免れた唯一の公共建物として、戦後もコンサートや演劇、バレエ等の公演が行われ、文化の中心として市民に親しまれてきました。ロマネスク様式を基調に、多様な要素をあわせ持つ建物です。

はじめに建物を回りながら、あいちヘリテージマネージャーの建築士の先生方から建築的特徴について解説いただきました。その後、ホールの舞台上で、プロが使用する本格的な材料や道具を使用して篆刻と書道を体験しました。自分の名前を書いた作品に自分でつくった印を押して、ひとつの作品が完成しました。

H25.2.17(日)	内 容	参加者
10:00～ 10:30	「文化財ってなあに？」-豊橋市公会堂についてのお話と建物の見学 (講師：あいちヘリテージマネージャー 望月昭氏・奥村由美氏)	豊橋市ボーイスカウト 小学生～高校生 22名
10:30～ 12:00	書と篆刻の体験 ～色紙を使って作品をつくろう～ (講師：豊橋市在住書道家 浜野龍峰氏)	



あいちヘリテージマネージャーによる解説



ホールの舞台上で書道・篆刻を体験



最後に作品と記念撮影

2 事業実施報告「観光ボランティアガイド育成事業」

第2回 ハ丁味噌カクキュー（岡崎市）

ハ丁味噌は、正保2年（1645）に早川家が「カクキュー」ハ丁味噌を創業し、現在で第19代目と長い歴史を有しています。昭和2年（1927）竣工の本社事務所と明治40年（1907）竣工の蔵が、愛知県内ではいち早く平成8年（1996）に登録有形文化財に登録されました。

おかざき観光ガイドの会の7名が参加し、所有者からはハ丁味噌の歴史や登録の経緯について、専門家からは建物の魅力や価値について解説していただきました。普段公開されていない事務所2階や、事務所・蔵以外に、造られた年代ごとに並ぶ石垣を見学し、ボランティアガイドの方々も大変興味を示されていました。

H25.3.7（木）	内 容	参加者
14:00～14:05	開催趣旨、愛知登文会の紹介、文化財について	おかざき観光 ガイドの会 7名
14:05～15:00	所有者によるお話 （講師：合資会社ハ丁味噌 総務部長 太田高司氏） 専門家による建物の特徴や魅力についての解説 （講師：名古屋工業大学大学院 教授 河田克博氏）	
15:00～16:10	建物の見学と解説、質疑応答	



所有者・専門家による解説



事務所外観



建物の見学と解説（蔵の前）

第3回 日本福音ルーテル復活教会（名古屋市東区）

ルーテル教会は、マルティン・ルターの宗教改革によりドイツに誕生したプロテスタント教会です。建物は著名な建築家ヴォーリス設計事務所による設計で、十字架型の窓をもつ礼拝堂が特徴的です。

所有者である日本福音ルーテル復活教会の前牧師さんからは、教会の成り立ちや建物の図面が見つかった時のエピソードなどを伺いました。また、専門家からは、教会建築やヴォーリスの設計の特徴などを解説いただきました。この事業はボランティアガイドの方を対象としていますが、今回は教会ということで会場が広いこともあり、愛知登文会会員や所有者、一般からもご参加いただきました。

H25.3.8（金）	内 容	参加者
10:00～10:05	開催趣旨、愛知登文会の紹介、文化財について	東区文化のみち 観光ボランティ アガイド18名 ＋その他8名
10:05～11:35	所有者によるお話 （講師：日本福音ルーテル復活教会 前牧師 戸田裕氏） 専門家による建物の特徴や魅力についての解説 （講師：名古屋市立大学 名誉教授 瀬口哲夫氏）	
11:35～12:00	建物の見学と解説、質疑応答、茶話会	



所有者・専門家による解説



教会外観



建物の見学と解説（右：牧師室 左：建物外観）



第4回 滝学園（江南市）

滝学園（滝実業学校）は、実業家滝信四郎氏が私財を投じて大正15年（1926）に設立した学校です。昭和元年（1926）に竣工した本館と昭和8年（1933）に竣工した講堂が、江南市第1号の登録有形文化財として登録されています。映画「高校三年生」のロケ舞台としても使用されました。

所有者からは学園設立や建替計画が取りやめになった経緯などのピソードを、専門家からは設計者・村瀬國之助氏についてや建築の特徴などを解説いただきました。

H25.3.12（火）	内 容	参加者
14:00～14:05	開催趣旨、愛知登文会の紹介、文化財について	江南市歴史ガイドの会 7名 江南郷土史研究会 2名 +その他4名
14:05～15:30	所有者によるお話（講師：滝学園 副理事長 滝勝夫氏） 専門家による建物の特徴や魅力についての解説（講師：名古屋市立大学 名誉教授 瀬口哲夫氏）	
15:30～16:00	建物の見学と解説、質疑応答	



所有者・専門家による解説



建物の見学と解説（本館2階）



建物の見学と解説（講堂外観）

3 事業実施報告「文化財建造物保存・活用講座」

第6回 県外現地視察「高岡市&金沢市」

2月18日・19日の2日間、文化遺産や歴史的建造物に関する取り組み事例を学ぶ県外現地視察として、高岡市と金沢市を訪問しました。重要伝統的建造物群保存地区や登録有形文化財の建物等を見学しました。

■高岡市 重要伝統的建造物群保存地区に指定されている土蔵造りの町家が残る山町と、高岡鍔物発祥の地である金屋町を視察しました。高岡市と金屋町まちづくり協議会の方に登録有形文化財建造物なども含めてまちを案内いただくとともに、視察後は意見交換の場を設けて相互の交流を深めました。



山町視察

■金沢市 町家を利用した交流事業や情報発信事業等に取り組むNPO 法人金澤町家研究会を訪問し、日頃の活動を伺うとともに、伝統技術の継承と職人育成を目指し市が設置した金沢職人大学校を視察しました。また、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている、主計町と東山ひがし地区も視察しました。



東茶屋町視察

編集後記

今年度最後の愛知登文会ニュースです。昨年度に引き続き、文化庁補助事業「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」と連動して、所有者の方々のご協力のもと、様々な事業を実施することができました。

来年度は、周辺の関連団体とも連携を図りながら、より一層事業を充実させていくとともに、所有者の皆さまにとって身のある活動にしていきたいと思っております。来年度も引き続き、ご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

愛知登文会ニュース 第5号

発行日：平成25年3月28日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目10番3号

（財）名古屋陶磁器会館内

TEL 052-935-7841 FAX 052-935-9592

E-mail info@aichi-tobunkai.org

URL <http://www.aichi-tobunkai.org>